

特集

両市をつなぐ

古河市と大野市が姉妹都市となった由来は、江戸時代までさかのぼります。古河藩と大野藩に、どのようなつながりがあったのか、その歴史をひも解いていきましょう。



▲土井利忠

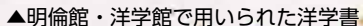
土井利忠

利忠は、財政再建のために藩直営商社である大野屋の全国展開、洋式帆船大野丸の建造および北蝦夷地の開拓に力を入れました。

利忠の後見人を土井利位が務めたほか、洋学の実践を中心に鷹見泉石と交流するなど、利忠が名君となった背景に古河の影響を色濃く見ることができます。

藩をあげて進めた
洋学の実践

書状の内容は、遠眼鏡(望遠鏡)や銅板画、和蘭風説書等の韓旋に對する礼状、蘭書の長期間借用に對する詫び状、洋学館より出版した蘭書翻訳書の贈呈など、利忠の泉石に對する強い信頼關係を垣間見ることができるものばかり。泉石の死去を知らされた利忠は、言語を絶やし喪に服したそうです。



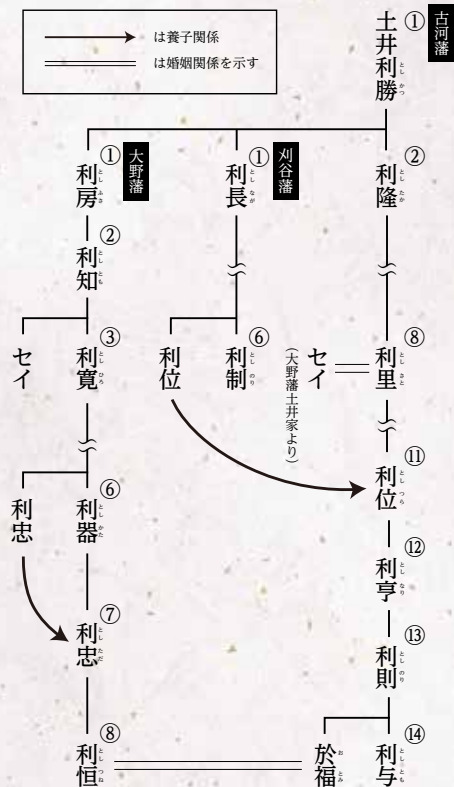
藩主同士が兄弟に

利房は、利隆の娘クラを養女として育て大和柳本藩へ嫁がせたほか、古河藩主利久が跡継ぎ不在のまま死没したとき、利久の弟にあたる利益の藩主就任に尽力し、古河土井家を存続させました。

互いの藩主に嫁いだ娘たち

姻戚関係でも両藩の結び付きは強
く、大野藩主利知としともの娘セイが古河藩
主利里としさとに嫁ぎ、古河藩主利則としのりの娘於

土井家略系図



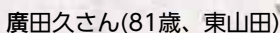
福が、大野藩主の利恒に嫁ぎました。
大野市の柳廼社にある古河土井家の家紋の入った駕籠などの什器類は、古河からお興入れの時に持参した道具だといわれています。

大野藩の名君誕生に尽力

幕末の名君、大野藩主利忠が8歳で藩主となったとき、古河藩主の利位に後見役を務めてもらうほか、古河藩家老の鷹見泉石とも交流を持ちました。学問好きな利忠にとって、優れた蘭学者でもあった利位と泉石は、尊敬すべき指導者であったそうです。

斬新な藩政改革を推し進め、偉大な功績を残した名君誕生に古河の文化が影響したことは、両藩の強いつながりを物語るエピソードです。

大野藩の家臣 廣田憲寛の子孫としての誇りを持って



大人になり、先祖の墓参りで大

大野市には一度も住んだことはありませんが、私にとっては第二のふるさとのように思っていますよ。